

# 株主通信

2023年3月期(通期)

2022年4月1日から2023年3月31日まで

**第一工業製薬株式会社**

証券コード:4461

## Contents

トップインタビュー ..... 1

**「稼ぐ力の強化」**

と原点回帰で、  
全社一丸となってV字回復をめざします。

決算サマリー ..... 2

DKS Close-up ..... 3

**地方創生と  
健康長寿社会実現に向けて**

—ライフサイエンス事業の現在—

事業セグメントの概況 ..... 5

決議結果・株式の状況 ..... 6

株主優待のご紹介 ..... 6

会社概要 ..... 7



## 「稼ぐ力の強化」と原点回帰で、 全社一丸となってV字回復をめざします。

厳しい事業環境の中だからこそ、あらためて当社の強みを再認識し、  
社員のモチベーションを高めるとともに「稼ぐ力」を強化することで、大きな飛躍へとつなげてまいります。

代表取締役社長 山路 直貴

### 当社グループの現状について

日本国内では、新型コロナウイルス感染症の行動制限緩和が進み、経済活動正常化の兆しが見られました。一方で、ウクライナ情勢の長期化、円安の進行、物価高による家計圧迫など、国内景気を下押しするリスクは未だ払拭されていません。

こうした状況の下、当社グループでは半導体をはじめとする部材の供給不足、エネルギー価格や各種原材料価格の高騰に伴う製品価格への転嫁や新規開発活動の遅れなどにより、利益確保に苦戦しました。これらの結果、2023年3月期(以下、「当期」)は連結ベースで売上高が65,081百万円(対前期比3.8%増)、営業利益が1,186百万円(対前期比74.4%減)となりました。各種原材料の高騰が価格転嫁を上回るペースで続いたことに加え、景気減速による販売数量の減少などにより、大変厳しい業績となりました。

2024年3月期も引き続き厳しい状況が見込まれますが、中期経営計画「FELIZ 115」で掲げる電子・情報、環境・エネルギー分野での収益拡大、ライフサイエンス分野の早期実績化に向けた経営資源の集

中を加速します。規模を追わない独自性のある製品提供を目指すユニ・トップ戦略と顧客志向を徹底することで、「稼ぐ力の強化」に努めてまいります。

### 「稼ぐ力の強化」に向けて

当期、厳しい業績に至った原因は大きく2つあります。それは、原材料費の高騰による利益率の低下および市況悪化による販売数量の減少です。特に、付加価値が高い電子材料やディスプレイ向け材料などの販売数量減少は顕著でした。こうした状況に鑑み、「稼ぐ力の強化」を年間標語として業績回復に取り組んでまいります。

具体的な取り組みとして、まずは製品価格の是正が挙げられます。分野別、顧客別に価格改定額を定め、実施してまいります。実施にあたっては、社内営業の各拠点にディスプレイを設置し、セグメント別にリアルタイムで営業利益を可視化します。

また、ライフサイエンスを含む主要セグメントの統一方針を策定するとともに、セグメント管理の強化に

取り組んでまいります。具体的には、今年4月に新組織となった戦略企画部から管理の責任と権限を持つセグメント担当を配置し、製造・販売・研究の本部を横断して、当該セグメントの方針立案と実行を担います。さらに、先行投資している霞工場の稼働率向上に向けて、自動車分野、電子材料用途の新規開発・拡販を推進すると同時に、プラントの活用策の検討を早急に行います。

国内では販売強化に向けて、代理店との関係強化に取り組めます。代理店それぞれの特徴を活かした営業活動に資する製品開発を推進してまいります。

海外では、当社グループの強みと製品特性を活かして、進出先や分野を特定するとともに、パートナーの選定を行ってまいります。

こうした取り組みを支えるべく、取締役、各本部長、統括部長をメンバーとした戦略会議を設置して、経営課題を協議し、取り組むべき課題に対する計画と実行を徹底してまいります。

### 「人を活かす組織」への変革

当社は、経済産業省、東京証券取引所が共同で取り組む「健康経営銘柄」に4年連続で選定されました。お客さまに限らず、社員も当社の大切なステークホルダーの一員です。社員一人ひとりが自らの強みを発揮し、活き活きと働く組織であることが当社の成長につながります。

社員の満足度をより高めるため、「能動的・任務型」組織への変革を目指して、人事制度改革に着手します。新たな評価制度と給与体系を整備し、研修制度をはじめとしたさまざまな人材育成制度を検討してまいります。

### 株主の皆さまへ

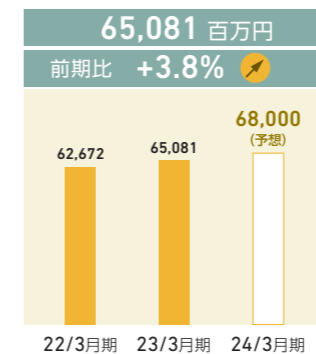
外的要因による非常に厳しい事業環境におかれたとはいえ、当期の業績につきまして、株主の皆さまにご心配をおかけする結果となってしまい、衷心よりお詫び申し上げます。

当社グループの強みであり、お客さまからも高い評価をいただいている主要なコア技術、すなわち界面活性剤の根幹となる乳化・分散、合成技術の応用分野はまだ多く存在します。これらをもってモノと知恵の複合化を図り、異分野や異業種における複合化に取り組んでまいります。

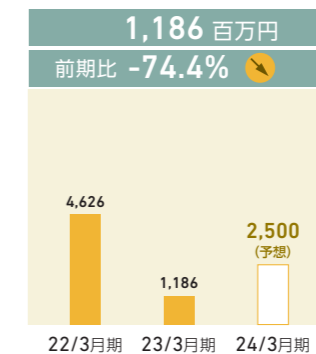
当社グループは、現在重要な岐路に立っています。原点を見つめ直し、グループ一丸となってV字回復に取り組んでまいります。株主の皆さまには、より一層のご支援を賜りますようお願い申し上げます。

## 決算サマリー

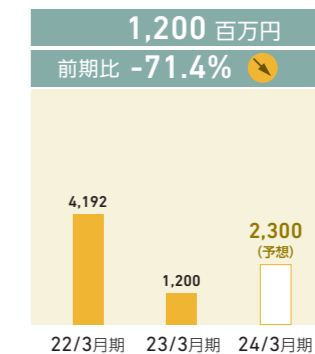
売上高 (百万円)



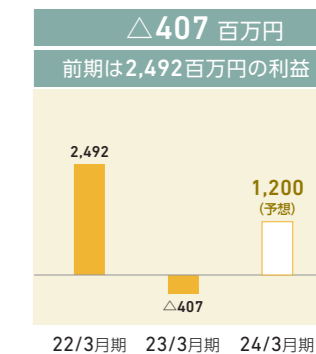
営業利益 (百万円)



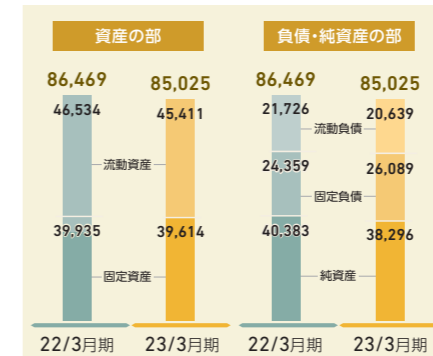
経常利益 (百万円)



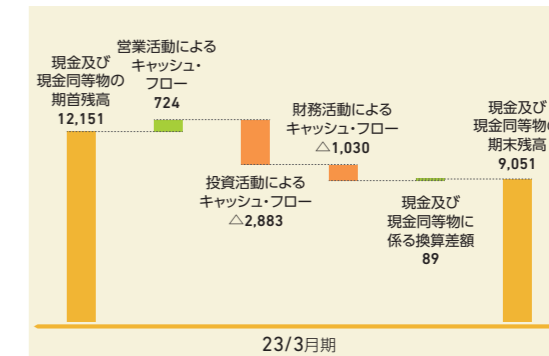
親会社株主に帰属する  
当期純利益 (百万円)



連結貸借対照表 (百万円)



連結キャッシュ・フロー計算書 (百万円)



配当金・配当性向



### ポイント

#### 総資産

前連結会計年度末に比べ14億43百万円減少しました。これは主に、電子記録債権が6億85百万円、商品及び製品などの棚卸資産の合計が11億28百万円増加したものの、現金及び預金が30億95百万円減少したことなどによるものです。

#### 純資産

前連結会計年度末に比べ20億87百万円減少しました。非支配株主持分が3億33百万円増加しましたが、自己株式の取得などにより自己株式が14億66百万円増加し、親会社株主に帰属する当期純損失4億7百万円、剰余金の配当8億40百万円などにより利益剰余金が12億48百万円減少したことなどによるものです。

#### 営業利益

将来に向けた研究開発費の増加や原材料価格の高騰が価格転嫁を上回るなど『界面活性剤』セグメントや『機能材料』セグメントを中心に減益となり、11億86百万円(前期比74.4%減)となりました。

#### キャッシュ・フロー

現金及び現金同等物(以下、「資金」)は、前連結会計年度末と比べて30億99百万円減少し、90億51百万円となりました。減価償却費32億95百万円などにより資金が増加した一方で、棚卸資産の増加13億62百万円、売上債権の増加7億22百万円、有形固定資産の取得による支出28億34百万円などにより資金が減少したことによるものです。



## 事業に対する想いと 今後の展望について お聞かせください。

**石黒:** 当社事業の基盤ともいえる養蚕業は、近年の着物需要の低下や安価な絹の輸入、化学繊維への台頭や担い手の高齢化、担い手不足などを背景に、衰退の一途をたどっています。一方で、近代産業を支えた養蚕業は、科学技術研究とともに発展してきた経緯もあり、現在も世界トップクラスの技術や研究ノウハウを有しています。

当社は、こうした技術を活かした製品開発によって非繊維型の新たな活用法を見いだすとともに、改良型養蚕技術の開発を低負担型の養蚕業の新しいビジネスモデルに展開し、養蚕イノベーション®を実現・推進してまいります。

**鈴木:** 私はDKSのものづくりに携わってきましたが、当社の研究職の募集に応募し、現在は全く新しい分野の研究にチャレンジしています。

当社の研究活動は、養蚕資源を活用した機能性食品の開発によって、健康寿命の延伸を目指すものです。養蚕イノベーション®を推進し新たなビジネスを生み出すことは、雇用の創出、ひいては地方創生につながります。また、桑の植樹による耕作放棄地の有効活用は、環境負荷の低減を実現します。こうした活動に尽力し、ライフサイエンスというDKSの新たな取り組みを通して、社会に貢献したいと考えています。

代表取締役社長 藤瀬 圭一

「養蚕イノベーション®により地方創生と健康長寿社会の構築に貢献する」ことが当社の企業理念です。養蚕イノベーション®とは、絹糸だけでなく養蚕業に由来する資源、すなわち桑・蚕幼虫・蚕蛹・シルクの機能性研究を基盤としたケミカルライフサイエンス分野での非繊維型産業への転換と、それによる地域独自の新しい産業やビジネスモデルを創出する取り組みです。

当社は、養蚕資源やカイコハナサナギタケ冬虫夏草の健康に関わる機能性評価、関与成分やそのメカニズムの解明を行っています。また、これらの研究より開発される食品の原料確保を目的とした養蚕業の効率化検討やネットワークづくりも進めています。

DKSグループ入りしたことで、当社の理念に共感し、目的を共有して一緒に研究を進めてくれる仲間ができたことに力強さを感じています。当社の基礎研究による科学的根拠の蓄積と、DKSによる製品化に向けた応用開発、同じく新たな仲間の池田薬草による製造の効率化と品質管理などのシナジーが今後期待できると考えています。各社の専門性を集合知とすることで新たな価値の創出につながると信じています。



研究部 代表取締役社長 研究部 研究部長  
鈴木 大地 藤瀬 圭一 石黒 慎一

### 株式会社バイオコクーン研究所 (旧: 東白農産企業組合)

2001年、蚕蛹を原料とした冬虫夏草の販売を目的に東白農産企業組合を設立。2007年より国立大学法人岩手大学とともにカイコ冬虫夏草による脳機能改善の研究に取り組み、2016年岩手大学発ベンチャーとして株式会社に変更、現社名に変更。2018年第一工業製薬により完全子会社化。

設立	2001年
資本金	4,040万円
本社所在地	岩手県盛岡市
工場所在地	福島県東白川郡(第一工業製薬が所有)
URL	<a href="https://bcc-lab.jp">https://bcc-lab.jp</a>

# 地方創生と 健康長寿社会実現に向けて

ーライフサイエンス事業の現在ー

「産業を通じて、国家・社会に貢献する」という社是のもと、当社は2018年に池田薬草とバイオコクーン研究所をグループに迎え入れ、ライフサイエンス事業に参入いたしました。SDGs実施指針である「健康・長寿の達成」「地域活性化」に連動し、深刻化する少子・高齢化において生じる社会課題の解決をめざします。ライフサイエンス事業をけん引する両社の関係者を迎え、その取り組みの現状について聞きました。



製造管理部 代表取締役社長 業務部 管理部  
大西 正明 三浦 宏之 横佐古 澄江 西山 博章

### 池田薬草株式会社

1984年、第二種医薬品製造販売業として設立。現在は原薬粉末化技術を用いて、主にエキスの抽出、濃縮からスプレードライ、噴霧乾燥などの事業を行っている。徳島県の特産品であるすだちの皮に含まれる有効成分スダチチンの商品化に取り組み、2018年第一工業製薬により完全子会社化。

設立	1984年
資本金	1億円
従業員数	32名(2023年3月末現在)
本社・工場所在地	徳島県三好市
URL	<a href="https://www.ikeda-yakusou.co.jp">https://www.ikeda-yakusou.co.jp</a>

## 対 談

## DKSグループ入りしての変化、 および事業の現状と 今後の展望についてお聞かせください。

**大西:** DKSグループ入りは、当社にさまざまな変化をもたらしました。特に安全衛生や生産技術に関する改善が飛躍的に進み、作業員への負担が大幅に低減されました。また、「わくわく5S活動」を推進し、事務所、倉庫などを含む作業環境もかなり改善されました。お客さまから驚かれることもあるほどです。製造設備のメンテナンスも自前で行える体制を整備することができました。こうした取り組みを今後とも継続し、生産性、品質のさらなる改善につなげていきたいと考えています。

**西山:** 私は3年前の管理部の立ち上げ時に異動し、以来ISOの運用や安全推進などに取り組んでいます。DKSグループ入りは、管理面での強化を図っていた当社にとって良いタイミングでしたし、福利厚生を含めて会社が良くなっている実感があります。

現在は医薬品の受託製造に対応するため、2021年8月に改正されたGMP省令に準拠すべく、ハード面とソフト面の改造等に取り組んでいます。大変な作業ですが、何としましやり遂げたいと考えています。

**横佐古:** 2019年の入社以来、私は業務部に所属していますが、依然としてアナログ的な業務が多いため、今後はIT化・DXなどに積極的に取り組み、効率化を図っていきたいと考えています。

生まれも育ちも徳島県の私は、「Sudachin®」やすだち独特の爽やかな香りを生かした「すだちアロマエッセンシャルオイル」など、特産品のすだちを使った自社商品を誇らしく思っています。また、廃棄物を再利用して商品化することで、環境負荷低減や地域創生に貢献しようとする当社の取り組みに共感しています。

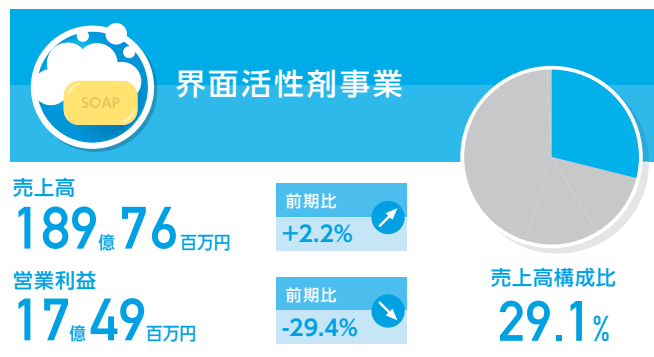
代表取締役社長 三浦 宏之

当社は、厳格な管理のもと、高度な抽出・噴霧乾燥技術を駆使して医薬品原薬や食品、化成品などの受託生産を主要事業としています。

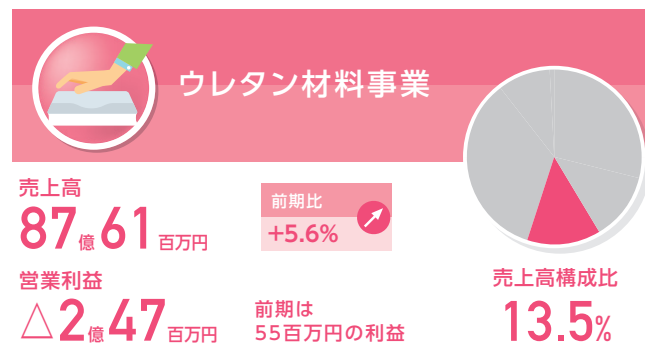
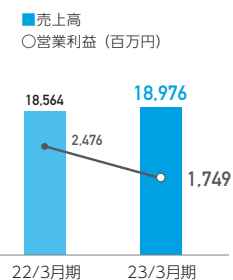
当社の企業理念は「地域に愛され、地域に貢献できる企業をめざす」こと。地元徳島県は、高い糖尿病死亡率、そして特産品であるすだちの搾汁後の外皮の処理という社会課題を抱えています。これらを解決するため、産官学連携プロジェクト「すだちイノベーション」に参画し、すだちの外皮に含まれる有効成分「スダチチン」を活用したサプリメント「Sudachin®」を開発、現在は機能性表示食品の申請を行っています。

当社の新たな挑戦であるこの取り組みは、廃棄物を創造的に再利用するアップサイクルを通じ、地方創生を可能とします。DKSのライフサイエンス事業における実働部隊として、グループ連携のもと、地域に根差した事業創出、地域貢献をめざしてまいります。

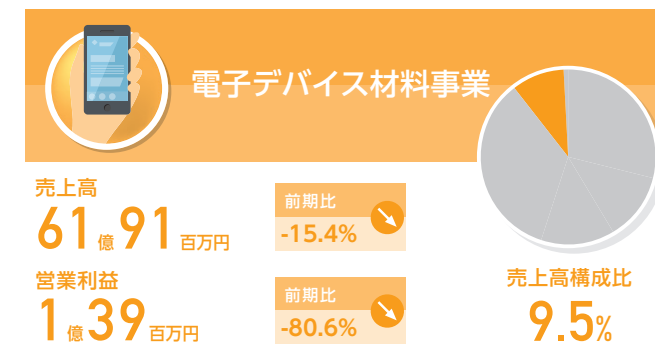
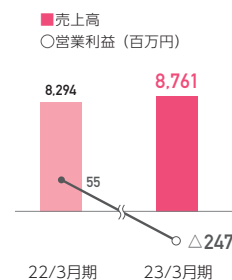
# 事業セグメントの概況



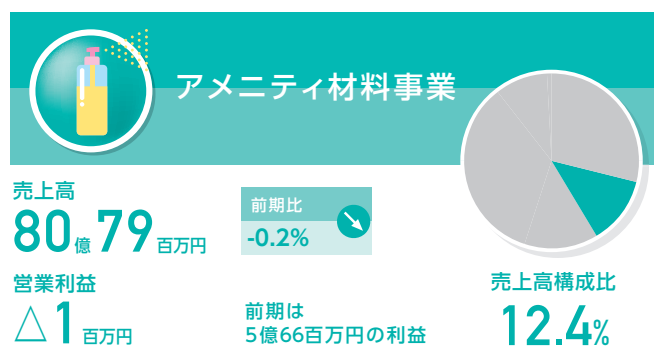
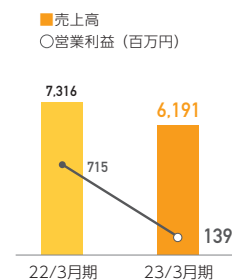
国内ではIT・電子用途、塗料・色材用途は低調に推移しましたが、機械・金属用途は堅調に推移しました。石鹸・洗剤用途は大幅に伸ばしました。海外ではゴム・プラスチック用途は低調に推移しましたが、繊維用途は堅調に推移しました。



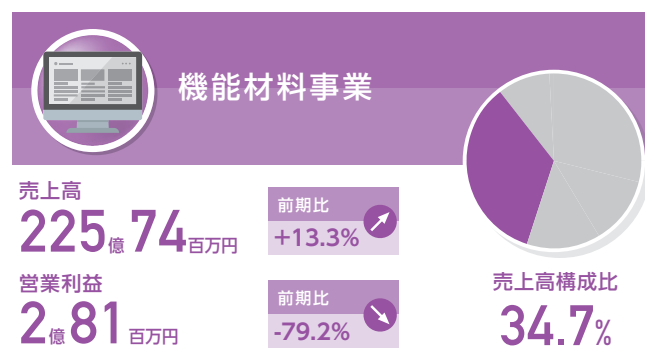
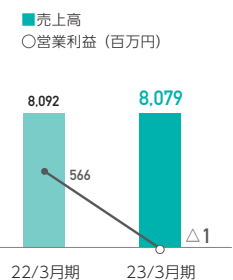
公共工事に関連する土木用薬剤は堅調に推移し、フロン規制に関連する環境配慮型の合成潤滑油は大幅に伸ばしました。機能性ウレタンは建築用途等が低調に推移しましたが、IT・電子用途が堅調に推移しました。



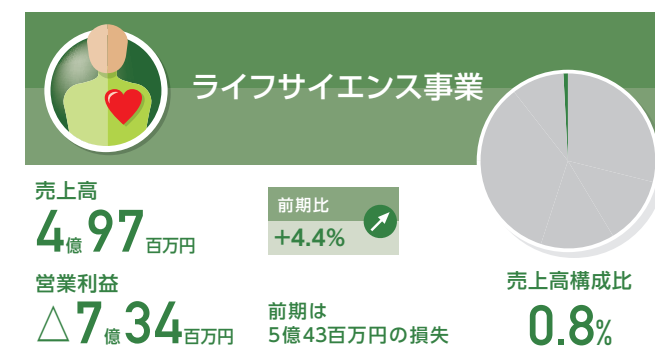
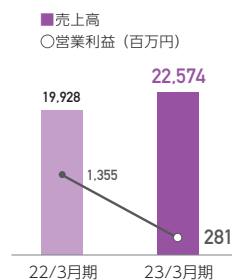
ディスプレイ用途のイオン液体、太陽電池用途の導電性ペーストが大きく落ち込みました。



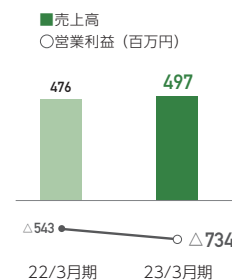
国内ではショ糖脂肪酸エステルは食品用途、ビニル系高分子材料はゴム・プラスチック用途がそれぞれ堅調に推移、セルロース系高分子材料はエネルギー・環境用途が低調に推移しました。海外ではショ糖脂肪酸エステルは食品用途、化粧品用途が堅調に推移しました。



国内では、水系ウレタンはIT・電子用途が大きく落ち込みました。光硬化樹脂用材料はIT・電子用途が、難燃剤はゴム・プラスチック用途が、それぞれ国内外で大幅に伸ばしました。



健常者及び軽度認知障害者に対する臨床試験において、ナトリード®含有のカイコハナサナギタケ冬虫夏草摂取による認知機能改善効果を確認しました。医薬品添加物や天然素材からの抽出物の濃縮化、粉末化による健康食品等の受託事業は堅調に推移しました。



# 決議結果

# 株式の状況 (2023年3月31日現在)

## 第159期定時株主総会決議のご通知

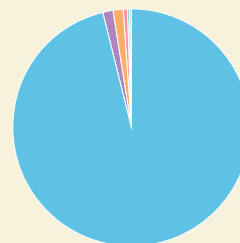
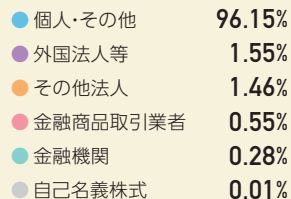
2023年6月23日開催の第159期定時株主総会は、お蔭様をもちまして終了いたしました。その決議の結果につきましては、インターネット上の当社ウェブサイトに掲載しております。

こちらをご覧ください  
<https://www.dks-web.co.jp>

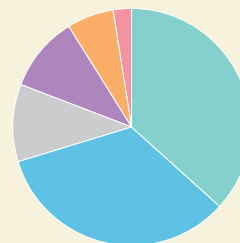
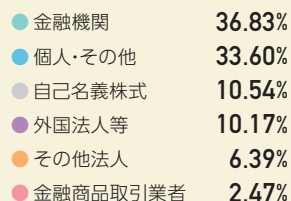


## 株主分布状況

### 株主数比率



### 株式数比率



## 大株主一覧(上位10名)

株主名	所有株数(株)	持株比率(%)
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	931,300	9.74
第一生命保険株式会社	613,400	6.42
株式会社みずほ銀行	427,000	4.47
株式会社京都銀行	417,000	4.36
株式会社日本カストディ銀行(信託口)	389,900	4.08
DKS取引先持株会	353,100	3.69
朝日生命保険相互会社	339,400	3.55
第一工業製薬従業員持株会	297,887	3.12
京都中央信用金庫	220,000	2.30
農林中央金庫	140,000	1.46

(注) 1.当社は自己株式を1,126,227株保有しておりますが、上記大株主からは除外しております。  
 2.持株比率は、自己株式を控除して計算しております。

## 株主優待のご紹介(保有株式数に応じて商品贈呈)

株主の皆さまからの日頃のご支援に感謝するとともに、当社株式への投資の魅力を高め、中長期的な視点で当社株式を保有していただけるよう2019年より株主優待制度を導入しております。本年度は株主さまの保有株式数に応じて、下記商品を贈呈いたします。

### 株主優待の内容

#### 対象となる株主さま

3月31日現在の株主名簿に記載または記録された当社株式100株(1単元)以上を保有する株主さま

#### 贈呈時期

7月上旬頃より  
順次発送予定

※配送の日時指定はお受けしておりませんのでご了承ください。

保有株式数 優待金額	優待商品		
	天虫花草 5日分(20粒) 天虫花草・和烏龍茶 4個	スダチン 30日分(60粒)	株主優待 特別販売クーポン ライフサイエンス 関連商品
100株以上～ 1,000株未満 約3,000円相当	●	—	●
1,000株以上 約6,000円相当	●	●	●

## 優待品のご紹介

### 天虫花草

「天虫花草」は、当社の健康食品「カニコハナサナギタケ冬虫夏草」をリニューアルした商品です。形状は従来のカプセルタイプから飲みやすい錠剤タイプにしました。一般的に冬虫夏草は、アミノ酸など多種の栄養素が含まれるスーパーフードと言われています。



#### ご注意

●優待品は、株主名簿に登録されているご住所にお届けいたします。●配送の日時指定はお受けいたしかねますので、ご了承ください。●株主さまの住所変更のお申し出は、株主さまの口座のある証券会社にお申し出ください。なお、株主さまの個人情報は、法令および当社個人情報保護方針に基づき厳重に管理を行っております。

### 天虫花草・和烏龍茶

鹿児島県産の茶葉を使用した清々しい味わいの和烏龍茶です。ティーバッグタイプで冬虫夏草を手軽に摂っていただけます。



### スダチン

「スダチン」は、すだち搾汁後の果皮から抽出した特有のポリフェノール「スダチチン」を含む、健康増進をサポートするサプリメントです。当社関連会社の池田薬草(株)にて製造・販売しています。



# 会社概要 (2023年3月31日現在)

会社概要	
社名	第一工業製薬株式会社
創業	明治42年4月
創立	大正7年8月
資本金	88億9,520万円
従業員数	584名(連結1,104名)

## 取締役、監査役 (2023年6月23日)

役職	氏名	役職	氏名
代表取締役 会長	坂本 隆司	代表取締役 社長	山路 直貴
専務取締役	岡本 修身	取締役	清水 伸二
取締役(社外取締役)	谷口 勉	取締役(社外取締役)	奥山 喜久夫
取締役(社外取締役)	橋本 克己	取締役(社外取締役)	中野 秀代
常勤監査役	大西 英明	常勤監査役	河村 一二
監査役(社外監査役)	高橋 利忠	監査役(社外監査役)	中 英也

## 事業所

● 本店	● 四日市市場 千歳地区
● 本社・研究所	● 四日市市場 霞地区
● 東京本社	● 大湊工場
● 大阪支社	● 滋賀工場
● 名古屋支店	
● 九州支店	

## 株主メモ

創業年月	明治42年4月(1909年4月)
事業年度	4月1日から3月31日まで
定時株主総会	毎年6月下旬
配当	期末配当金受領株主確定日 3月31日 中間配当金受領株主確定日 9月30日
単元株式数	100株
発行済株式総数	10,684,321株(2023年3月31日現在)

**お取扱窓口** 証券会社等に口座をお持ちの場合、住所変更や買取請求等株主さまの各種お手続きは、原則として口座を開設されている証券会社等経由で行っていただくこととなりますので、ご利用の証券会社等へご連絡をお願いいたします。証券会社等に口座をお持ちでない場合(特別口座の場合)、みずほ信託銀行(株)にてお取次いたします。

**お問合せ先** 〒168-8507 東京都杉並区和泉2-8-4  
みずほ信託銀行(株) 証券代行部  
フリーダイヤル 0120-288-324  
(土・日・祝日を除く9:00~17:00)

**未払配当金のお支払** みずほ信託銀行(株)および(株)みずほ銀行の各本店および全国各支店

**上場取引所** 東京証券取引所 プライム市場  
(証券コード4461)

## 第一工業製薬株式会社

〒601-8391 京都市南区吉祥院大河原町5  
TEL 075-323-5911 FAX 075-326-7356  
<https://www.dks-web.co.jp>

## TOPIC

### 健康寿命延伸に貢献

### 機能性表示食品「快脳冬虫夏草」 今夏販売開始！！

当社は、グループ会社であるバイオクーン研究所とともに、養蚕技術を活用して得られるカイコハナサナギタケ冬虫夏草の研究開発を行ってきました。この冬虫夏草に含まれる「ナトリド®」には、中高年の方の認知機能の一部である視覚的な記憶力、認知機能速度を維持するのに役立つ機能が報告されています。「快脳冬虫夏草」は、冬虫夏草由来成分を機能性関与成分とする初めての機能性表示食品であり、今年夏頃の発売を予定しています。



快脳冬虫夏草イメージ図

機能性表示食品届出公開

<https://www.fld.caa.go.jp/caaks/cssc02/?recordSeq=42212050910103>

DKSレポート  
(統合報告書)は  
こちらから

